



■湘南鎌倉総合病院 院長 塩野 正喜

この度2012年度年報が出来上がりました。この1年の湘南鎌倉総合病院の歩みを各部署ごとに診療実績、学会活動、地域活動を皆様にご報告するとともに、病院のさまざまな出来事をご報告いたします。

海外支援としてはアフリカのソレト、ガーナ、アジアのモンゴル、タイの人工透析チームがそれぞれの国から選抜され、医師1名、看護師2名、ME1名が来日し、母国の腎臓病に苦しむ方々のために透析治療の充実を目指し懸命に研修されました。

2010年9月に移転した新病院も年を追うごとに、受診される患者さんが増加し、救急車も2割ほど増加し、大変混雑してまいりました。設備の拡充と共に、職員も不足気味となり大增員を図ることが、緊喫の課題となつてまいりました。

4月には初期研修医18名、後期研修医・スタッフ16名、看護師147名、医療技術38名、事務27名、計246名が希望に胸を膨らませて新たな仲間として入職しました。

神奈川県から32床の増床が認められ、4月から許可病床574床となりました。5月にはICUが10床から18床に拡大、重症患者の診療体制の充実が図られました。巡回バス健診もスタート、心臓リハビリテーションの診療開始、また手術支援ロボット：ダビンチも導入され患者さんにやさしい前立腺内視鏡手術がスタートいたしました。10月には6床のNICUがスタートし、待望の未熟児治療が始まりました。一步一步病院の機能の拡充を図つてまいりました。

10月には国際的病院機能評価JCI (Joint Commission International) を受審し、亀田総合病院、NTT東日本関東病院、聖路加国際病院について日本で4番目の病院として、高品質な医療を安心、安全に受けられる病院として認証されました。JCI基準により、診察前、投薬、手術、検査のたびに2種類の方法で患者確認が義務づけられ、「お名前と生年月日を教えてください」が場面ごとに繰り返され本人確認が徹底されるようになりました。基本的習慣として①患者さんに触れる前、②清潔・無菌操作の前、③体液暴露のリスクがある場合の後、④患者さんに触れた後、⑤患者さんの環境に触れた後に必ず手洗いの励行が義務づけられました。手術や侵襲的な検査の前には、手術部位のマーキングと、携わる全ての職員が同時に手を止めてチーム全体でタイムアウト(本人確認、手技確認、機材、薬剤確認など)を励行し、安心安全なミスのない治療をいたすように徹底されることになりました。さまざまな診療場面での方針と手順が統一され安全、安心な医療の提供と質の確保が向上することを願っています。またJCIは絶えず改善が義務づけられ、3年ごとに厳しい再審査が行われます。また10月には日本病院機能評価Ver6.0の更新も取得いたしました。

湘南鎌倉総合病院はこれからも、地域の方々に支えられて、安心安全な病院、地域になくてはならない病院、信頼のおける病院を目指してまいります。